

発 達 と 支 援

人生80年、一番長い成人期…
成人期の就労について考えます。

発達障害のある方は、「人づきあいが苦手」「指示がとつきに分かりにくく混乱する」「同時に2つのことをこなすことが苦手」「臨機応変に対応することが苦手」などの特性から、就職してもうまくいかないことがあります。

そういう時にやみくもに仕事をしなければ、とあせったり、周りが「仕事をしないと一人前でない」とプレッシャーをかけることで精神的に追い詰められてしまうことがあります。

発達障害のある人も、そうではない人も、生き方は一人ひとり違います。

まず自分は何が得意で何が苦手なのか、苦手なことに対しては支援を受けた方がうまくいくのかどうかなどを丁寧に振り返り、「自分らしい働き方を見つける」ことが大切です。

仕事にむけて ～いろいろな段階方法～

- 自分にあった仕事を見つけて働く
- 周囲の人に協力してもらいながら働く
- すぐには働けないけれど将来仕事をしたいと考え、相談や訓練を続ける
- 外で働くのではなく、安心できる環境で自分らしく生活する。

発達障害とは…

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害です。

就労に関するサービスなど具体的なことについては次回に紹介します。

問い合わせ 発達支援室 ☎ 65-0735 ☎ 63-4085



▲行商の出で立ち（大正11年）

けること
は「旅に出
る」と言わ
れ、遠く
県外まで
赴き、契
約した家
庭のもと
へ薬を運び
ました。行

自家で配合するというものでした。山伏が活躍した近世中頃、製薬に携わる家では、調合法を独自に研究し、門外不出の家伝として扱っていました。

明治中期から昭和初期までは、製薬は主に近隣の女性の手作業で行われ、行人人によって各地へ販売されました。行人人には「配置さん」と呼ばれた農閑期の近所の男性が雇われ、出發の日には立祝が行われ、見送られました。行商に出か

甲賀の薬

甲賀地域は、滋賀県でも早くに製薬業が始まったところですが、その起源は各地にお札を配りつつ、薬を売って生計を立てていた山伏に始まるとされます。

江戸時代の甲賀での製薬は、山野にある薬草を摘み、

商人は行き先の家で健康相談を受けたり、健康状態を確認したりして、適切な置き薬を処方し、その代金を徴収しました。



▲配置売薬の行李

行商に使用する行李は五段重ねのものが多く、配置薬や使用されずに回収した古薬を種別ごとに入れるほか、帳面・売上金・算盤・矢立、そして広告を兼ねた紙風船などの土産品を入れました。

大正から昭和にかけて法律が整備されると、次第に生薬を大阪の業者等から購入し、薬剤師の管理のもと自社工場で調合するように移行していきます。

昭和40年代の高度経済成長期以降、大量生産された製品が流通し、配置売薬にも変化の波が訪れますが、今も甲賀には歴史の古い製薬会社が多く、その伝統は脈々と受け継がれています。

甲賀市の
文化財

46

問い合わせ

歴史文化財課 調査管理係

☎ 86-80026 ☎ 86-8216

甲南ふれあいの館企画展
『甲賀の薬〜とっておき話〜』
開催中〜12月5日
☎ 86-7551